

に、術者のモラル・技術の修得度の低下等を懸念され、これまで延々と築いてきたオステオインテグレーション・インプラントの流れを断ち切る事の無いよう、我々歯科医師への強い提言をされておられました。

その様な流れの中での学会ではありましたが、コンピューター支援のシュミレーションOPEに関しまして、確実に進歩していることを実感できましたし、耳鼻咽喉科とのコラボレーションによりますサ

イナスリフト術の施行など、近未来のインプラントテクノロジーを予感させられる内容も盛り沢山の学会でした。

最後に、この学会会場に来て、私と2011年度同窓の卒業生であります河野出・西原秀幸・藤本俊輝先生方と再び出会い行動を共にし、インプラント馬鹿に関して、語らえたことが私のこれからの大きな励みとなりました。

第31回関東・甲信越支部学術大会/日本口腔インプラント学会

知識・技術の進歩はめまぐるしい

日時：平成24年2月11日(土)・12日(日)
場所：京王プラザホテル



小城 哲治 (神奈川県)

平成24年2月11・12日に開催された第31回関東・甲信越支部学術大会に参加させて頂きました。

近年のインプラントに関する知識や技術の進歩は目まぐるしいと感じております。

特に3D画像とその周辺の連携は、インプラント治療の質を向上させ、患者さんの安全を確保し、そして的確な治療を提供できるようになったと思われまます。

しかし、これらを使いこなすためには術者自身の向上あってこそのものであり、そのために日々、努力と研鑽、そして情報収集を怠ってはいけなと感じました。

私にとりましてはよりインプラントに携わる機会を増やし、より一層勉強に励みたいと思える大会となりました。

